広報事業

1. 広報紙発行事業

(1) 広報かわちながの

市政の情報を迅速、正確に伝え、市民と市政との間により良い相互理解と信頼関係を築くかけ橋として、月1回発行。ページ数は36ページを基本とし、職員がパソコンを使用して紙面を編集。見やすいレイアウト作りを心がけるとともに印刷経費の節減や編集行程での校正の正確・迅速化を図った。

5月号からは表紙裏に目次を付けたほか、情報 PICK UP やモックル生活ガイド、情報プラザのコーナーを設けることで、読者にわかりやすい分類わけを行った。編集では、特集面を中心に関係する市民に登場してもらうほか、催しや募集記事などをコンパクトにまとめるなど、親しみやすく読みやすい紙面づくりに努めた。また、カラーページを活用して、「ものづくり探訪」や「ふるさとの情景」を掲載するなど魅力のある紙面作りに取り組んだ。その結果、9月号が近畿市町村広報紙コンクールで、前年の優良賞を上回る優秀賞の評価を得た。

電算システム(広報<u>DTP</u>*システム)賃借料 418,212円 印刷製本費 14,961,100円のうち14,957,400円 広報紙配送委託料 6,416,792円のうち5,843,792円

また、自主財源の確保や地元商工業者の育成・振興、市民への生活情報の提供などを目的として、平成 17 年 12 月発行の広報紙から有料広告を掲載している。

広告件数 58 件 (平成 27 年 4 月号~平成 28 年 3 月号) 広告収入額 2,236,037 円 (平成 27 年 4 月号~平成 28 年 3 月号)

※DTP (デスクトップパブリシング)

…出版物の原稿作成や編集、デザイン、レイアウトなどの作業をコンピュータで行い、データを印刷所に持ち込んで出版すること。

(2) 声の広報と点訳広報

市内で音訳活動を行うボランティア団体の河内長野音訳サークル「あい」に委託して、視覚に障がいのある市 民を対象に声の広報を発行した。内容は広報かわちながのに掲載した記事をカセットテープなどに録音したもの で、毎月1回発行。希望者28人に郵送した。また、河内長野点訳サークルがボランティアで広報かわちながのを 点訳し、障がい者福祉センターあかみねや図書館などに設置していることから、点字用紙を提供した。

声の広報発行並びに配送業務委託料(上記広報紙配送委託料 6,416,792 円のうち) 573,000 円 点訳広報用消耗品費 24,320 円

2. 広報推進事業

(1) ホームページ管理運営事業

インターネットにより広く情報発信を行うため、市のホームページを運営。 各担当課が最新情報に随時更新した。その結果、市ホームページには年間 695,427 件のアクセスがあった。なお、ホームページの利便性向上のため、トップページのデザインやレイアウトを変更するとともにバナー広告を画面の下部に常時表示するよう改修を行った。

市ホームページ管理システム賃借料 693,360 円 並びに通信運搬費 682,560 円 電算処理業務(ホームページ改修業務)委託料 162,000 円 また、自主財源の確保や地元商工業者の育成・振興、市民への生活情報の提供などを目的として、平成 19 年 3 月からバナー広告を掲載している。

広告件数 7件(3か月単位で1件としている) 広告収入額 205,740円

(2) 報道機関との連絡調整

マスコミを通じて市をPRするため、報道機関に対して予算の概要をはじめ、重点施策や市議会議案の説明を行うとともに、市民の身近な話題づくりやふるさと意識の定着を促すまちの話題なども提供、連絡調整に努めた。

報道提供件数 75件

(3) シンボルキャラクター (モックル) 事業

市への愛着や誇りをはぐくみ、個性あるまちづくりを目指すとともに、市のイメージを内外に伝えるため、市のシンボルキャラクターの活用を図るべく、立体デザインに基づき作製した着ぐるみ(2体)を使って、イベントなどにおいて市のPRを行った。

シンボルキャラクター (モックル) メンテナンス業務委託料 120,000 円 着ぐるみ貸出件数 47 件 イラストの使用許可件数 (市以外) 9 件

(4) 広報板の自治会・町会への提供

地域住民相互のコミュニケーションを図ってもらおうと広報板を要望のあった自治会などに提供した。なお、フレームが使用可能な場合は板のみの原材料の提供を行った。

広報板作製委託料(8基作製) 138,240円 板の原材料費(10枚) 38,292円

(5) お知らせ電話

休日急病診療所の案内などを留守番電話に録音。閉庁日でも聞ける 24 時間サービスの「お知らせ電話」を実施 し、年間 61 件の利用があった。